

□大学所蔵自然史関係標本調査会：自然史関係大学所蔵標本総覧 452 pp. 1981. 日本学術振興会 ¥ 3,400. 昭和53年に文部省が実施した，大学所蔵標本等実態調査（自然史関係）の結果については，その数字的要点は「大学所蔵標本〈自然史関係〉の実態調査報告」として昭和55年に文部省学術国際局情報図書館課から出版されている。この調査では各標本室の特色あるコレクションについて，あわせて報告を求めたのだが，このたびこれが表記出版物として刊行された。内容は動物，植物，人類，古生物，岩石・鉱物に分けられ，各機関の報告が写真を含めてそのまま掲載されており，わが国の自然史関係標本を大観するうえできわめて有用である。系統を異にする学部の標本はとかく疎遠になり勝ちだが，本書によって身近なものとなるだろう。世界各地のコレクションや，材幹や種子などはこういう文献が無ければ広汎な利用は期待できない。自然史関係標本の重要性の再認識が求められているとき，これを裏付ける根拠を与えてくれる本書は大変貴重である。値段も上質紙にカラー写真まで使っているには安価である。なお本書に記載された機関の購入については，多少の割引を考慮中であり，近く案内が行く予定とのことである。学振および丸善で扱っている。（金井弘夫）

□山本大二郎：奥多摩の花 229 pp. 1982. 講談社，東京。¥1,500. 奥多摩は東京からみてまことに手頃な植物の観察地である。化学の大家がそこに20年余りカメラをかついで訪れ，スライドに収めたものを一冊にした。137ページにわたる写真集は308枚に及び，早春からはじめて丘陵，雑木林の花を経て大体季節順に並んでいて，ことにスマイレの種類など楽しい。とくに興味のあるのは花のハイキングコースとして8コースを挙げたのは，月並みのコースはやめて，植物を楽しむコースを選び，それにふさわしい時間をかけてあるし，適当地図が添えてあるのもまた有難いことである。（前川文夫）

□池上義信（監），石沢 進（編）：新潟県植物分布図集 第2集 (Ikegami, Y. (comp.) Ishizawa, S. (ed.): Distribution maps of vascular plants in Niigata Prefecture (Japan) 2) 448 pp. 1981. 植物同好じねんじょ会，新潟。第一巻とほとんど同型で，図版は No. 51-150 で100も増し，巨大となった。被子植物が主で100種に及ぶ。ブナ，オオイタドリ，サンカクヅルのように全県に分布の及ぶものやサデクサ，チョウセンゴミシ，エゾヤマアザミのように分布の片寄るものもあり，眺めていて色々気がつく。またケハギの二型のうち，立毛タイプは阿賀野川沿岸で分布がとまるのに，タテヤマハギは山形県に及ぶなど，存外知られていないことが目立つ。ソヨゴの分布が中部に全く欠けるのも意味がありそうで，これらは今後注目をあびるであろう。第一集に出たもののうち，新たな分布を知ったものや新潟県植物分布資料のものも出ている。新しい分布型としてウラジロ型，アイズゲ型，ネジキ型，ダケゼリ型，カシワ型，チシマネコノメソウ型を拾い，巻末にはラシヨウモンカズラ型分布（松田義徳）の外，数個の論文が載せてあって分布論について並々ならぬ努力をしている。（前川文夫）